

経営者への活きた言葉

蔵書に人生あり 向井 透史(古書現世店主)

1. 土光敏夫が住んでいた家が解体され、そのままになっていた土光蔵書を整理することになった。蔵書を整理していてまず意外に思ったのが宗教に関する本が多いことだ。「禅の思想」でおなじみの鈴木大拙。座禅教育の普及に取り組むなど、昭和を代表する曹洞宗僧侶・澤木興道コウドウの全集。ダイラマの「仏教のころ」。
2. 特に仏教、その中でも法華経関係が多いのは、土光敏夫の母親・登美の影響が大きいだろう。「母親がしっかりしなければよい子は育たない」と、登美は女子教育の重要性を説き、昭和17年、鶴見に橘女学校を開設する。土光敏夫にとって、この母親の教育は大きなものだったようで、信仰心も厚くなった。母からの教えに「個人は質素に、社会は豊に」がある。無欲の姿勢につながっているはずだ。仏教思想を読むことは、土光イズムの支柱を育んだのではないだろうか。
3. 土光蔵書を整理し終わったとき、土光敏夫の長男・陽一郎氏が「明治・大正・昭和の高度成長。いろんな知識を吸収して日本を成長させていく時代に生きたオヤジらしい蔵書だった」としみじみ話した。これらが土光敏夫を形作った本だと思うと「蔵書に人生あり」だと感じた。

(参考:「文藝春秋」2011年10月特別号)

経営者のための危機管理

非常時における対応

顧客の不安や動揺が高まる非常時にこそ、企業の信頼性が問われる。東日本大震災発生時のパナソニックは次のように取り組んだ。

1. 例年の3倍近い2万7000件の修理受け付けに対応するため、全国から応援部隊を現地に派遣。
2. ガソリン確保に専念する「ガソリン補給隊」や、商品を修理できるかどうかを判断する「切り分け隊」を発足。
3. 震災に関連した問い合わせ内容を想定問答集としてまとめ、震災3日後に、モバイルサイトに掲載。
4. 薄型テレビのパネル部品代や家電製品の修理代を半額に。修理見積依頼時の出張・見積料金を無償化。

(参考:「日経ビジネス」:2011年7月25日号)